

米空軍戦闘機千歳基地訓練移転反対全道集会の開催

連合北海道は、7回目となる米空軍戦闘機の千歳基地での訓練移転を受け、1月17日、千歳市において、「米空軍戦闘機千歳基地訓練移転反対全道集会」を約500名の参加のもと開催した。



主催者を代表して挨拶にたった連合北海道出村良平会長は「この訓練移転に強く抗議し、即時の中止を求める。」とし、「沖縄の負担軽減の名目で始まったが、軽減されるどころか基地の拡大・固定化につながっている。訓練を行うのではなく、米軍基地の整理・縮小を実現し、極めて不平等な日米地位協定を抜本的に改正していくことが先決ではないか。」と強く訴えた。また、昨年9月、安倍政権が安保法制を強行採決したことについて「私たちはこういった様々な集会において、安保法制の廃止を強く求めていく。5区の補選や参議院選挙も予定されており、この法制廃止を民主党を中心として、国会の中で野党に強く提案するよう求めていきたい。」と決意を述べた。



引き続き連帯挨拶にたった北海道平和運動フォーラム山本紀彦代表は「この北海道においても、小樽の米艦入港や矢白別演習など毎年のように行われている。こうした実態を改めて認識し反対行動を行っていく必要がある。」とし、「訓練自体が東アジアの緊張をもたらすことは言うまでもない。政府は対話の中から平和に向けて行動してもらいたい。」と国に対し求めた。

胆振地協日西和広事務局長による集会決議が採択されたのち、石狩地協太田聡会長の訓練移転に怒りを持って抗するとした団結ガンバローで集会を締めくくった。

終了後、参加者は市内をデモ行進し、訓練移転反対や、米軍基地を整理・縮小せよなど、市民にアピールし理解を求めた。

